

PRESS RELEASE

報道関係各位
プレスリリース

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

中之島香雪美術館開館記念展

「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

公益財団法人香雪美術館は2018年3月21日、大阪・中之島の超高層ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」4階に、中之島香雪美術館を開館します。

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平(1850~1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を収蔵しています。開館45周年を記念し、神戸・御影の本館に次ぐ2番目の施設として中之島香雪美術館を開館して、コレクションの公開と普及をいっそう進めています。

開館から1年間は、開館記念展「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」を開催。村山が収集した日本とアジアの美術から、重要文化財をはじめとする選りすぐりの作品300点余りを5期にわけてテーマ別に展示し、コレクションの全貌を紹介します。都心のビルにありながら「市中の山居」を目指した静謐で格調ある新しい美術館の空間で、珠玉のコレクションをお楽しみください。

また、神戸・御影の本館では、中之島香雪美術館開館を記念してコレクション展「刃金の美 刀剣・甲冑名品展」を開催。村山の美術品収集の出発点である刀剣コレクションを公開いたします。

中之島香雪美術館

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| I 美術を愛して | 2018年3月21日(水・祝)～4月22日(日) |
| II 美しき金に心をよせて | 2018年4月28日(土)～6月24日(日) |
| III 茶の道にみちびかれ | 2018年7月7日(土)～9月2日(日) |
| IV ほとけの世界にたゆたう | 2018年10月6日(土)～12月2日(日) |
| V 物語とうたにあそぶ | 2018年12月15日(土)～2019年2月11日(月・祝) |

※毎週月曜休館(祝日の場合は翌火曜日)、年末年始休館

会場 中之島香雪美術館(大阪市北区中之島3-2-4、中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階)

主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

香雪美術館(神戸・御影)

コレクション展「刃金の美 刀剣・甲冑名品展」 2018年3月1日(木)～4月8日(日)

※毎週月曜休館

会場 香雪美術館(神戸市東灘区御影郡家2-12-1)

主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

開館記念展のみどころ

I 美術を愛して 2018年3月21日(水・祝)～4月22日(日)

村山龍平と特にゆかりの深い名品を中心に、村山の美術品収集の軌跡をたどります。村山の人となりを伝える資料のほか、収集の背後にストーリーのある作品を選び、コレクションのエッセンスを味わう絶好の機会となります。

展覧会の冒頭を飾るのは、美濃「志野茶碗 銘 朝日影」(桃山時代、16～17世紀)。村山がこよなく愛した名碗で、『新千載和歌集』所載の歌から自ら名付けました。

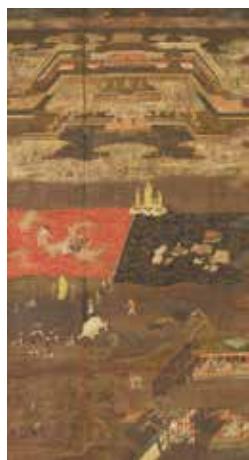
武家の出身である村山は、コレクションを刀剣類からスタートしました。重要文化財「太刀 銘 吉家作」(鎌倉時代、13世紀)は、古雅な作風で知られる名刀です。

多くの寺社文化財が流失の危機に瀕し、その保護に乗り出した村山は、自らも多くの仏教美術を収集しました。優品ぞろいの仏教絵画の中から、いずれも重要文化財の「病草紙(小法師の幻覚をみる男)」(平安時代～鎌倉時代、12～13世紀)、「二河白道図」(鎌倉時代、13～14世紀)などを展示します。

村山のコレクションは、書跡、中近世絵画、さらには茶の世界へと広がり、厚みを増していました。いずれも重要文化財の藤原俊成筆「自筆書状 左少弁宛」(鎌倉時代、文治2・1186年)、(伝)周文筆「瀟湘八景図屏風」(室町時代、15世紀)や曾我蕭白筆「鷹図」(江戸時代、18世紀)など、著名作家の重要な作例がコレクションに加わっています。茶席を飾ったとみられる重要文化財の梁楷筆「布袋図」(南宋時代、13世紀)は、「東山御物」の一品として知られています。



美濃「志野茶碗 銘 朝日影」
(桃山時代、16～17世紀) ①(□内の数字は写真番号)



重要文化財 「二河白道図」
(鎌倉時代、13～14世紀) ④



重要文化財 (伝)周文筆「瀟湘八景図屏風」(室町時代、15世紀)
右隻部分 ⑥



重要文化財
曾我蕭白筆「鷹図」
(江戸時代、18世紀) ⑦



重要文化財
梁楷筆「布袋図」
(南宋時代、13世紀) ⑧

II 美しき金に心をよせて 2018年4月28日(土)～6月24日(日)

佛教美術を莊厳し、屏風絵や工芸品を彩る金。古来、日本人の心を魅了してきた金に飾られた日本美術の世界を、「金の哲学」と「金の装飾」の2テーマにわけて紹介します。

「金の哲学」の章では、仏や神々を嚴かに飾り、またその神聖さをあらわした金の輝きや、観る者に異世界を想起させる金彩など、金の清浄さと美しさにあふれる優品を展示します。

当館佛教絵画コレクションを代表する名品である重要文化財「稚児大師像」(鎌倉時代、13世紀)では、弘法大師空海幼少時のあどけない姿を、繊細な截金による円相が柔らかく包み込んでいます。当館随一の人気作品、長谷川等伯筆「柳橋水車図屏風」(江戸時代、16～17世紀)や重要文化財「レバント戦闘図・世界地図屏風」(江戸時代、17世紀)では、六曲一双屏風の大きな空間に壮麗な金の世界が展開します。



重要美術品 長谷川等伯筆「柳橋水車図屏風」(江戸時代、16～17世紀)左隻 ⑩



重要文化財 「稚児大師像」
(鎌倉時代、13世紀) ⑨



野々村仁清作「色絵忍草文茶碗」(江戸時代、17世紀) ⑪

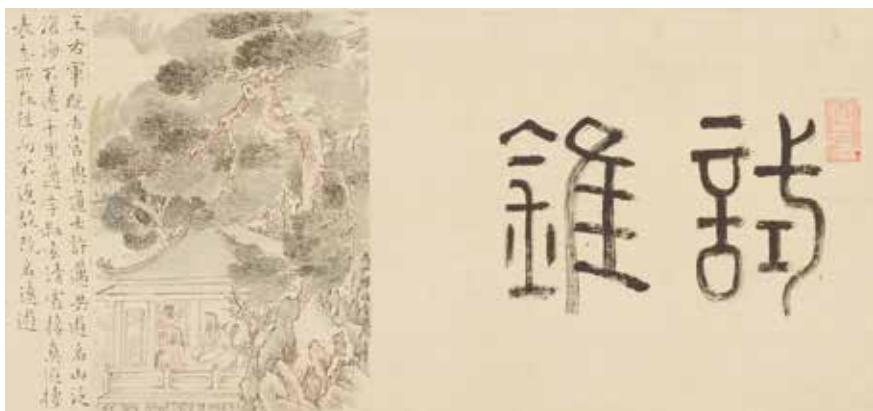


原羊遊斎作「菊蒔絵大叢」(江戸時代、文化14・1817年) ⑫

Ⅲ 茶の道にみちびかれ 2018年7月7日(土)～9月2日(日)

刀剣収集、文化財保護から茶の道へ。50歳を超えて茶の世界に入った村山龍平は、明治35(1902)年に大阪の実業界を中心とする18人が集う十八会の発起人となりました。茶の道に導かれるように収集の幅が広がっていった村山コレクションを、村山が会主となった十八会の会記や、明治44(1911)年に建てられた茶室「玄庵」^{げんなん}の資料、同時期に記録された古書画目録などをもとにたどります。

十八会には、当時の関西財界を代表する実業家が会員に名を連ねています。18人が順番に茶会を開くもので、村山は明治35(1902)年10月の第3回で会主を務めました。伊賀「耳付花入 銘 慶雲」(桃山時代、17世紀)、「彫三島茶碗 銘 朝霧」(朝鮮時代、16世紀)、木村蒹葭堂旧蔵の池大雅筆「六遠図・試錘図卷」(江戸時代、18世紀)など、茶会記に記載のある品々で、当時一流の茶人たちが集った茶会の様子を伝えます。



重要美術品 池大雅筆「六遠図・試錘図卷」(江戸時代、18世紀) 「試錘図」部分 ⑯

さらに、村山が愛した茶道具の数々を展示するほか、夏～秋の季節にちなんだ、喜多川歌磨筆「月見の母と娘」(江戸時代、19世紀)などの絵画が情趣を添えます。



伊賀「耳付花入 銘 慶雲」
(桃山時代、17世紀) ⑮



喜多川歌磨筆「月見の母と娘」
(江戸時代、19世紀) ⑯

IV ほとけの世界にたゆたう 2018年10月6日(土)～12月2日(日)

明治初頭、奈良・興福寺の五重塔が売りに出されたことに衝撃を受けた村山龍平は、寺院や神社に伝えられた宗教美術に意識を向けるようになりました。当時の朝日新聞紙面からは、全国の寺社宝物調査や古美術調査に賛意を示していたことがうかがえます。さらに、村山がコレクションした仏教美術作品には、岡倉天心を中心とした「文化財」をめぐる活動に関連の深いものがあり、村山の中に芽生えた「文化財」は「保護」されるべき”という近代的精神が若々しい情熱とともに鮮やかに伝わってきます。村山と寺社文化財の関係を、文化財保護制度の確立までの歩みを踏まえて紹介します。

展示される作品のうち、「聖徳太子絵伝」(鎌倉時代、13～14世紀)は、ボストン美術館の収蔵品と一揃えのうちの3幅と推定されるものです。2幅は本格修理後初めての公開。「菩薩半跏思惟像」(白鳳～奈良時代もしくは新羅～統一新羅時代、7～8世紀)や重要文化財「薬師如来立像」(平安時代、9世紀)など彫刻も充実し、見どころの多い展観となります。



「聖徳太子絵伝」(鎌倉時代、13～14世紀) ⑯



重要文化財 「薬師如來立像」(平安時代、9世紀) ㉑



「稚兒觀音縁起絵巻」(鎌倉～南北朝時代、14世紀) ㉒

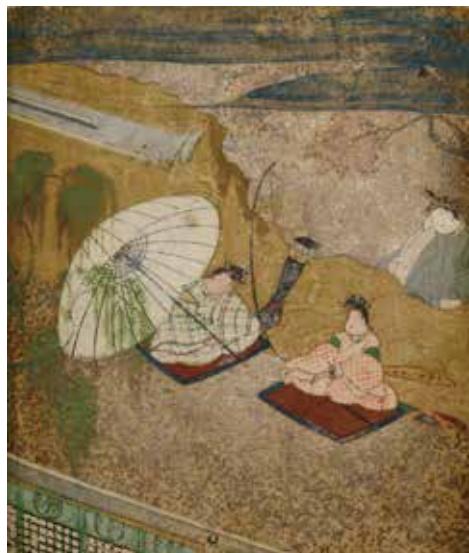


V 物語とうたにあそぶ 2018年12月15日(土)～2019年2月11日(月・祝)

説話や王朝文学を絵画化した「物語絵」や、優れた歌人の和歌とその肖像を描く「歌仙絵」など、日本美術と深くかかわってきた物語とうたをテーマに作品を紹介します。物語やうたは写本や刊本でその内容が流布するだけでなく、絵画化されて絵巻や屏風、色紙、軸装など、さまざまな形で日本人に長く愛好されてきました。「伊勢物語」「源氏物語」や「浦島物語」といった物語と、三十六歌仙や百人一首など、うたにかかわるさまざまな作品を展示し、文学と絵画が響きあう豊かな世界をお楽しみいただきます。

「伊勢物語図色紙」(室町時代、15世紀)は、明治時代に雑誌『國華』で紹介されて以来、今回が初公開となる逸品です。

他にも岩佐又兵衛とその工房によって制作された「堀江物語絵巻」(江戸時代、17世紀)、人気の琳派では、池田孤村筆「赤染衛門百人一首歌意図」(江戸時代、19世紀)などを紹介します。



「伊勢物語図色紙」(室町時代、15世紀) ㉔



池田孤村筆「赤染衛門百人一首歌意図」
(江戸時代、19世紀) ㉓



岩佐又兵衛「堀江物語絵巻」(江戸時代、17世紀) ㉕

PRESS RELEASE

中之島 香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

———— 報道関係のお問い合わせ ————

「中之島香雪美術館」広報事務局(ワインダム内)

TEL 03-6661-2510 FAX 03-3664-3833 Email kosetsu@windam.co.jp
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-28-9-4F「中之島香雪美術館」広報事務局